

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 「働きながら学ぶ」という定時制教育本来の意義・目的を正しく認識させ、自主的・計画的に学ぶ生徒を育成する。</p> <p>2 基礎学力の向上を図る。</p> <p>3 基本的な生活習慣の確立に努める。</p> <p>4 指導内容、指導方法の工夫に努め、学習意欲を喚起し、教育効果を高める。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 各学年や各分掌と密に連携を取り、生徒指導上の規定を見直すなど、安心・安全な学校作りに努めた。また、多くの校内行事を工夫して成功に導き、クラブでも全国レベルでの成績を収めるなど、多様な生徒に対して各方面で教育成果を上げた。</p> <p>(2) 進路実現に向けて、「キャリア教育講演会」など、早い段階から進路指導の充実に努めるとともに、各関連企業・機関との連携指導を丁寧に行い、多くの生徒の希望進路を実現した。</p> <p>(3) 設備面では全日制と併置されている現状において、教務部を中心に校内的な調整を丁寧に行い、教育活動が円滑に進むよう努めた。</p> <p>課題</p> <p>(1) 希望進路実現のためには、進路意識を高めるためのキャリア教育の充実が必要であるとともに、基礎学力の定着、基本的な生活習慣の確立が必要である。 また、学校生活の定着を図るために、今後も各種行事への積極的な参加を呼びかけることで、学校生活に目標・目的を持たせることが必要である。</p> <p>(2) 個々の生徒の状況について、学年部と各分掌や、教科担当とクラス担任の情報交換をさらに密なるものにして、課題のある生徒の指導に当たるとともに、個々の生徒のニーズに合わせて外部機関と連携を強化したり、教員の研修の充実に努める必要がある。</p>	<p>1 高等学校に学ぶこと、並びに「働きながら学ぶ」ことの意義を理解させ、学校生活に目標・目的を持たせることにより、学校生活への定着を図る。</p> <p>2 卒業を目標に生徒相互に助け合い、励まし合う生徒集団の育成を目指し、様々な学校行事の充実に努める。</p> <p>3 希望進路の実現に向けて、3年間・4年間を見通して、早期より、計画的にキャリア教育を推進する。</p> <p>4 個々の生徒にきめ細かな指導を通じて、基礎学力の定着と生活習慣の改善を図るとともに、社会性や規範意識の涵養に努める。</p> <p>5 特別な支援を要する生徒については、外部機関と連携しながら、特別支援会議を中心として支援の内容を明確化、全体化して、適切な指導に努める。</p> <p>6 平成29年度各分掌等の総括を踏まえ、学年部と各分掌や、教科担当とクラス担任の情報交換をさらに密なるものにして、課題解決のための取組を進める。</p>

※ 評価について A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった D…ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	安心・安全で楽しい学校作りに向けた取組を推進する。	各学年や各分掌と密に連携をとり、安心・安全な学校作りに向けて問題行動に適切に対処する。そのために生徒指導規定が現代的な課題に対処できているかどうかを見つめ直しつつ、生徒が問題行動を起こさないように自制できるように啓発活動に取り組む。 生徒の学校生活への定着の足がかりとしての楽しい学校生活をバックアップすべく、生徒会と連携して文化祭を始めとする各行事に積極的に取り組ませ、さらには部活動を通じて例えば全国大会などの大会への出場など学校生活に目標・目的を持たすべく積極的に参加させる。	B B	生徒指導規定を一部改正し、今まで運用としてしか取り組めていなかった指導を明文化できたのは成果と考えられる。 生徒の問題行動が多様化する中、指導方法のたゆまぬ研究と改善が課題である。 生徒会活動や部活動が活発であったことは成果と考えられる。 それらの活動に参加しつながら一部の生徒の参加を如何に促すかが課題である。
	充実した教育課程を編成し実施する。	多様な観点による学習評価の工夫・改善と教育課程のさらなる充実・改善に向けた取組を行う。	C	各教科の特性を踏まえ個々の生徒の理解力や発達段階に応じた学習評価について研究を深めているが、生活指導や日常の授業等に十分生かすまでには至っていない。 学習指導については教科担当者と担任が密に連携を図りながら、基礎的基本的な内容の定着を目指し取り組みを進め、日々の学習活動のみならず個別指導や考査前勉強会なども重点的に実施した。
個に応じた学習指導を実践する。	個々の生徒の課題を的確に把握し、基礎・基本を踏まえた粘り強い学習指導を実践する。	B		
進路指導	個々の希望進路の実現に向けた取組を推進する。	進路意識を高めるため、キャリア教育を充実させて取組を推進する。	B	キャリア教育の一環として、進路講演会等の取組を行い、自らの生き方を考えることを通して、進路意識や職業観の育成を図ることができた。支援を要する生徒への個別指導、出願書類の作成、模擬面接等、進路実現につなげる取組を行うことができた。 希望進路実現のため、生徒とのコミュニケーションを通して生徒理解に努め、個別指導やカウンセリングの力を高めていくことが必要である。
		希望進路の実現に向けて、各学年や各分掌、外部機関と密に連携を図る。	B	
健康教育	心身ともに健康な生活習慣を生徒一人ひとりが確立できるように取り組む。	健康上の配慮や支援の必要な生徒に対する指導を組織的に推進する。	B	食物アレルギーをもつ生徒への対応のために、教職員に研修を行い共通理解に努めた。 また、特別支援教育に関しては年間を通して計画的・組織的に活動した。課題としては、給食の喫食率向上を目指した取り組みを強化し、生徒の食生活を通じた健康管理・基本的な生活習慣確立の手助けをすることである。
		生徒の食生活の実態を把握し、食育の一環として、給食を通じた望ましい食生活習慣の確立を目指す。	C	
事務・施設	学習環境の充実と安全・衛生を確保するため、施設設備の充実に努める。	本庁所管課への予算要望と、本庁各課との調整による予算確保に努める。 校内巡視による施設・設備の点検を実施し、危険箇所・老朽場所の早期発見に努め、改修につなげる。	C B	地震や台風等の自然災害が多発し、その対応に追われたため、年次計画で行っている通常の老朽箇所の改修等があまり行えなかったが、各分掌とのヒアリングを行い、学校全体や各分掌の状況を踏まえた計画的な予算執行が行えた。 クラス担任との情報交換により、生徒に対する修学支援制度等の対応が行えた。
	個々の生徒の状況に応じて、就学支援に係る援護制度について適切な対応を行う。	クラス担任との情報交換を密にし、経済的理由により就学が困難になることがないよう、個々の生徒の状況に応じて、援護制度についての適切な対応を行う。	B	

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 卒業式においては、生徒が落ち着いた状況で参加しており学校生活が安定している様子が感じられた。日頃の指導の成果とも考えられるので、今後も安心・安全な学校作りに向けて取組を進めてほしい。 • 生徒が将来の見通しをもつためには、高校における基礎的・基本的な内容の確実な定着が必要になる。学校における学習指導については基礎学力の定着を第一に置いて取組を進めてほしい。 • 高校生活において学習活動はもちろん大切であるが、生徒個々の情操を豊かにし倫理観を確立することも重要であると考え、さまざまな学校行事を通じてそれらの向上にも留意してほしい。
----------------------------------	---

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 安心・安全な学びの場を確保することが学校で学習を進める上での基礎となる。来年度も継続して取組を進め、学習環境の一層の向上を図ることが必要となる。 • 個々の生徒へ基礎的・基本的な内容を確実に定着させるためには、生徒の状況を踏まえた指導を行うことが重要である。クラス担任と教科担当者等との意見交流や情報交換を密にして共通認識を確立していくことが必要となる。 • 学校行事や部活動等への参加を促し、様々な生徒との交流を通じて学校生活を豊かなものとし、高校卒業後の進路について意識を高めさせるとともに、進路実現に向けての学校における体系的なキャリア教育を更に充実させることが必要となる。
--------------------------------	--